

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	0370900532
法人名	特定非営利活動法人 ケアセンターいこい
事業所名	認知症高齢者グループホームいこいの宿
所在地	岩手県一関市末広町一丁目9-13 (電話) 0191-23-5258

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1 岩手県福祉総合相談センター3F		
訪問調査日	平成21年2月12日	評価確定日	3月19日

【情報提供票より】(21年 1月 17日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16年 1月 5日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 3 人, 非常勤 6 人, 常勤換算 5.5 人	

(2) 建物概要

建物構造	木造二階 造り		
	2 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	10,500 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 食費込み 円
	または1日当たり		1,000 円

(4) 利用者の概要(1月 17日現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	1 名
要介護5	1 名	要支援2	- 名
年齢	平均 85 歳	最低 72 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤胃腸科・内科医院、笠原歯科医院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>一関市内を流れる磐井川堤防の桜並木が目の前に見える市街地の住宅地にあり、利用者一人ひとりが自立した生活を営み、ノーマライゼーション(共に助け合いながら生活をしていく考え方)を基本に、地域との関わりを大切にしながら、法人が運営しているデイサービスをはじめ、数々の福祉施設や地域医療機関との連携を図り、終末期までのサービスを提供している。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>運営推進会議で検討し、災害時のマニュアルを作成し、民区区長、民生委員、消防署員の協力を頂き、年2回夜間体制での避難訓練を実施している。また、新たに素早く避難できる避難路も裏口を改善し、確保した。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>朝、夕の職員のミーティングと月一回の学習会で、利用者の状態変化に合わせた施設の改善などを検討し、解決の方向に向けている。外部評価は施設の見やすいところに備え、職員、利用者、来訪者が閲覧出来るようにしている。</p>
重点項目 ②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>推進会議は、2ヶ月に一度開催している。民区区長、行政の担当者、利用者、家族、管理者、職員で構成されている。内容は、報告と今後の予定についての話し合いが主で、特に民区区長さんが中心となり、前向きで有意義な会議になっている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>運営推進会議に家族の参加を得て、質疑・意見を出して頂き、ホームの運営やサービス提供に反映させている。苦情窓口や苦情箱を設けているが、殆ど利用はない。また、家族面会時には意見を頂き、職員定例会で話し合い、日常のサービスに反映させている。</p>
重点項目 ③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>民区の運動会、敬老会、同法人のデイサービスの敬老会に参加している。ホームの花見には、同法人の保育園児を招待して交流し、地域の夏祭りでは、子供みこしの駐車場、休憩場として、ホームの駐車場を提供し交流の機会としている。近くの小学校との交流も考え、働きかけているが実現されていない。</p>
	<p>重点項目 ④</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりが自立した生活を営むことが出来るように、地域活動に積極的に参加している。民区区長が推進会議の委員でもあり、地域行事(運動会・盆踊り等)や施設での行事(お花見・いも煮会)に、音頭をとってくれて地域への密着を助けてくれている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念、ケア理念は、玄関と利用者が集う居間の2か所に掲示している。また、定例学習会(月1回)で確認しながら日々の介護指針としている。また、今年度の目標を「個々に合わせたりハビリに取り組む」「行事やレクリエーションを通してコミュニケーションを図る」としている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民区の運動会・敬老会に参加している。また、同法人のデイサービスの敬老会にも参加している。ホームの花見には同法人の保育園児を招待し、幼老交流している。地域の夏祭りの子供みこしの駐車場、休憩の場としてホームの駐車場を提供し交流の機会としている。		近くの小学校に、ホームの利用者との交流を申し込んでいる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	朝・夕のミーティング及び学習会(月1回)で、利用者の状態の変化にあわせた施設の改善など検討し、解決の方向に向けている。外部評価は、職員、利用者、来訪者が閲覧出来るように、施設内の見やすい場所に備えている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	推進会議は2カ月に1回開催している。民区区長、行政の担当者、利用者、家族、管理者、職員で構成されている。議事録は職員全員で回覧し、出された意見は利用者のサービスに活かしている。		民区区長が積極的に消防、警察、老人クラブからの情報をキャッチして会議に臨んでくださるので、大変有意義であり、助かっている。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	年1回程度、広域行政組合の介護相談員が来所し、職員、利用者、家族に情報を提供して頂いたり、指導・助言を受け、対応している。その他に、特別な用事があった都度、市と行き来して、連携を図っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の面会時に近況報告や金銭出納簿の確認などをして頂いている。家族が遠方にいらっしゃる方には、電話や便りでお知らせしている。緊急時には電話でその都度連絡している。ホームの広報誌は年2回程度発行している。家族に送付しており喜ばれている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情窓口、苦情箱を設置しているが、利用はない。推進会議や、家族面会時に意見をいただき、職員定例会で話し合いをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者には、環境を変えないで、安定したケアが提供出来るよう、異動や離職が無い様にしている。また、必要な場合には利用者、家族に説明し納得して頂けるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修会に参加している。その内容をホームの定例会で説明し共有している。	○	職員が意欲を持って、また、ばらつきがなく研修が受けられるよう年間の研修計画を作成する等の取り組みをすることを期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホームの定例会(月1回盛岡)、ブロックの定例会へ参加し、情報交換や職員交換研修など実施している。交換研修は、福祉法人が運営する特別養護老人ホームの実習をしている。また、時にはブロックの職員間で、スポーツ、レクリエーションも行い、懇親を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者と家族には、事前にホームを見学し、居室や利用者との関わり等を確認して頂いている。管理者が、ご自宅に迎えに行く場合もある。安心して生活出来るような環境作りに取り組んでいる。従って現在は帰宅願望者はいない。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	衣類たたみや食材の準備等、出来ることは手伝って頂いている。台所に立つと、主婦としての自分が出てきて、生き生きとしている。また、ホームの菜園での野菜作りで教わることも多い。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の担当職員を決めている。利用者、家族の意向を把握し、出来ることの継続性と気づきを大切に、生活して頂いている。また、状態に変化があれば、月一度の定例会でケース検討して情報を共有している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	月一回の定例会兼ケース検討会議で、プランの検討を行っている。(入浴の無い日で、利用者を見守りながら全員で居間に集まり会議を行っている。)		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回の定例会でプランの検討を行い、家族へ報告し、同意を得ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	身体状況に応じて、法人の他事業所と連携し、柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診は、家族の依頼により同行受診することもある。緊急時に対応出来る医療機関との連携が出来ている。(送迎費用は加算してない。)		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	市の緩和ケアの会(アイザック)の会員になっており、終末期のサービスを支援する仕組みが出来ている。法人にも24時間体制で、職員が配置されていることから、臨機応変に対応出来ている。これまでも3人看取りをしている。	○	今後も、家族の意向に寄り添った、終末期ケアの取り組みを継続していただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者のプライバシーやプライドに配慮した言葉かけをしている。関係書類は、見えない場所に保管している。また、契約書に守秘義務の記述があり、個人情報の取り扱いに注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	法人の運営理念やケア理念に基づき、そして日々好きなことが出来るように取り組んでいる。買い物ツアー、ドライブ、散歩などを実施している。理容は出前もある。法人の副理事長が理髪屋なので、大変協力を頂いている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に調理(じゃがいもの皮むき)、配膳、茶わん拭きなどを行っている。月一回、近所の食堂から出前を取っている。外食も行っており、次回は回転寿司を予定している。嗜好が違う場合は、代替食を提供し、楽しむための支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は制限していない。その日の状態(体温・血圧・脈拍)に合わせた対応をしている。今のところ、入浴を嫌がる方はいない。バイタルチェックは、毎日、朝夕行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	本人のしたいこと、畑仕事、裁縫、洗濯物のたたみ、調理等の出来ることを行って頂き、潜在能力を引き出すケアを行っている。廊下と居間に、賑やかに利用者の塗り絵が飾られてるのが印象的である。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望を取り入れて、自由に外出出来るよう支援している。(買い物、散歩、ドライブ等)		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵をかけていないし、センサーも使用していない。夜間は警備会社との契約で、外部からの侵入等に対する警備体制をとっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成している。夜間体制で年二回訓練を実施している。民区区長、民生委員、消防署員の参加を頂いた。避難路も確保している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量の記録(チェック表)を作成し、個々の利用者の状態を把握している。		年に一度は法人の管理栄養士に献立、栄養価の評価をしていただくことが望ましい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペース(食堂兼居間)で生活することが多く、料理の匂い、生活の音、風景などを体感し、家庭的な雰囲気の中で生活できるよう取り組んでいる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室明るく、使い慣れた家具、位牌、写真等、自分なりに居心地良い環境を作って過ごしている。温風ヒーター、加湿器が設置されている。		